

<b>Title</b>	スタッフのこころのゆとり : 報告4 障がい者福祉分野から(第5回ピア・スーパービジョン)
<b>Author(s)</b>	聖学院大学総合研究所
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.20-1
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=2224">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=2224</a>
<b>Rights</b>	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

報告4 障がい者福祉分野から  
スタッフのこころのゆとり  
塩川 智大

①なぜ、この仕事についたのか？

私がこの仕事に就いた理由は、小学生の頃に「仲良し学級」の知的障がいを持った友達との出会いがきっかけです。その友達のお世話係をしていたことで、高校の進路を決める時、「福祉を学んでみたい」と思ったのです。

②仕事の概要と今抱えている課題

現在、都内の知的障がい者の入所施設で働いています。利用者の方々の生活（食事、入浴、排泄、日中活動など）を支援しています。

今抱えている悩みの一つは「新人教育」です。今の新卒の新人さんは、「ゆとり教育世代」で、決して強く言っているわけではないのですが、注意すれば、すぐに辞めてしまい、何も言わなければ、いつまで経っても一人前に仕事が出来るようにならない新人さんが多いのです。どのように新人教育をしたら良いのか悩んでいます。

もう一つの悩みは、福祉業界全体の課題であると思いますが、とりわけ知的分野に関しては、未だに根強く「虐待」が行われています。どんな理由があっても絶対にしてはいけないことですが、利用者だけでなく、虐待を目の当たりにして思い悩み、鬱になってしまうスタッフもいるのです。本当に大きな問題だと感じています。

③課題への取り組みと参加者と語りたこと

まず、虐待についてですが、「なぜ虐待をしてしまうのか」を考えると、スタッフの気持ちにゆとりがないからだと思います。スタッフの心が健康でゆとりがなければ、良い支援は出来ないと思います。ゆとりがない中で、利用者の理不尽な他害や理解が出来ない行動にイライラして、手を出してしまっているスタッフを何人も見えています。イライラしたからと言って手を出して良いわけは、絶対にはないのですが、心にゆとりがあれば、



左から大西晋介さん、塩川智大さん

我慢出来ることも多くあると思います。

障がい者をきちんと理解し、その人自身を理解しようとする心を持つことが、虐待を（自分で）新人教育に関しても同じ事が言えると思います。新人さん一人ひとりを理解し、その人にあった教育をしていくことで、立派な社会人・支援者に育ってくれるのかと思います。

最後に、現実として福祉の世界には、虐待など目を伏せたくなる大きな問題がたくさんあります。現実を知り、福祉から離れていく仲間も大勢見えています。しかし、利用者さんたちの為に良くしようとしている現場スタッフもたくさんいることを知ってください。その仲間がたくさんいればいるほど、スタッフの「心にゆとり」が出来、利用者支援がよくなっていくことは間違いない事実です。同じ方向を向いて戦える仲間を一人でも多く作って、よりよい支援をしていって下さい。

（しおかわ・ともひろ 障がい者福祉施設の生活支援員として勤務、2004年度聖学院大学人間福祉学科卒業）